



平成 30 年 9 月 27 日

岡山大学病院に「臨床遺伝子診療科」を新設

岡山大学病院は、平成 30 年 9 月 1 日に「臨床遺伝子診療科」を新設しました。当診療科には「遺伝カウンセリング外来」と「がんゲノム医療外来」の 2 部門を設置しています。遺伝カウンセリング外来は遺伝性の病気に関する情報提供や診断などを行い、がんゲノム医療外来は、がん個別化治療のための診断を行うことで主治医の治療方針決定の手助けをします。各外来とも、関係する診療科・部門と協力して、安心できるゲノム医療の提供を目指します。

新たに設置した臨床遺伝子診療科には、患者さんとその血縁者における将来の病気の発症リスクの予測につなげる「遺伝カウンセリング外来」と、患者さんから採取したがん組織などから遺伝子変異を特定し治療法を決める「がんゲノム医療外来」を設けています。

岡山大学病院ではこれまでも、遺伝カウンセリング外来を設置し、各診療科の遺伝子診療の専門家によって複数の診療科の中で遺伝カウンセリングを行ってきました。予防医療として重要な役割を担っていますが、患者さんにとっては大きな決断が必要なため、分かりやすい説明を提供したり不安に対する相談に応じるなど、より良い選択ができるよう検査前後の心理的・社会的なサポートも行います。遺伝カウンセリング外来の現時点での主な対象は、遺伝性のがん（家系にがんが多い、若くしてがんにかかるなどの家系の方）、小児の難聴、先天性疾患、口唇裂・口蓋裂、出生前診断や次の妊娠に関する考え方に対するカウンセリング、遺伝性皮膚疾患、内分泌疾患などです。

また、当院では平成 27 年に腫瘍センター内に「抗がん剤適応遺伝子検査外来」を開設し、国内でいち早くがんゲノム医療を施行してきました。平成 30 年 2 月には、厚生労働省より全国 11 の「がんゲノム医療中核拠点病院」の一つに指定を受け、同年 4 月からは「がんゲノム医療外来」に名称変更し、中国四国地方のがんゲノム医療拠点として再スタートしました。がんゲノム医療外来では、主治医からの依頼により、手術や検査の時に摘出したがん組織を使って、治療法の選択と関連する遺伝子の変化を調べ、抗がん剤の選択に役立てることを目指します。現在は多数の専門領域から医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、認定遺伝カウンセラー、バイオインフォマティシャン、リサーチコーディネーター、その他のメディカルスタッフが集結して、外来やエキスパートらでパネル会議を行っています。がんゲノム医療は、特に治療に到達するまでの時間を最短化する必要があるため、機動力を伴った対応が重要です。

これまで別々に行ってきた 2 つの外来を 1 つの診療科に集約したことで、がんの予防から治療まで安心してゲノム医療を受けられる体制ができました。今後は、ゲノム医療に携わる人材育成にも積極的に取り組み、ゲノム医療のさらなる推進に貢献していきます。



PRESS RELEASE

◆ 診療科開設に際しての目標です

- 1 ゲノム情報に向き合うことで、安心していただける遺伝医療を目指します。
- 2 がんゲノム医療体制を整備することで、きめ細かいがん医療の構築に寄与します。
- 3 岡大バイオバンクと連携して、中央西日本から地域医療と世界の健康・福祉向上および人材育成に貢献します。



平沢 晃 教授

(臨床遺伝子診療科長)

〈参考〉臨床遺伝子医療学講座ホームページ

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/genome>

〈お問い合わせ〉

この発表について

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻
腫瘍制御学講座（臨床遺伝子医療学分野）

教授 平沢 晃

（電話番号）086-235-7436

診療について

岡山大学病院 ゲノム医療総合推進センター

（電話番号）086-223-7151（代表）



岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を支援しています。